

“Hello. Nice to meet you!” 地図でつながる交流の輪

千葉県成田市立成田小学校 鈴木克之

1. はじめに

本校では平成8年度から4年間、総合的な学習の時間の中での英語活動研究校として、また、平成12年度からは、教科としての英語科の研究指定校として英語授業を実践している。現在も文部科学省の指定を受け、英語科における実践的なコミュニケーション能力の育成を研究している。本校の英語科の取り組みとして、英語授業と国際交流活動の2本の柱があるが、どちらの活動の中でも地図を取り入れて学習を進めている実践が取り組まれている。ここでは、4年生における交流活動の実践と6年生の文字学習における実践について紹介していきたい。

2. 4年生の実践（国際交流活動）



4年交流活動グループ活動

4年生の交流活動では、外国人を学校に招き、ふれあいを楽しむ活動に取り組んでいる。ここでは、これまで学習した英会話を使って、外国人とコミュニケーションをはかるとともに、ゲームや歌

を外国人と一緒にすることで、心の交流もはかっている。

簡単に活動の流れを紹介すると、①全体で外国人ゲストの自己紹介、②児童によるあいさつ、③グループに分かれて児童の自己紹介、④ゲストにインタビュー、⑤ゲームや歌、⑥ゲストを見送る、といった流れになる。

地図を活用する場面は、④のゲストにインタビューする場面である。ゲストに対し、“Where are you from?”と質問すると、ゲストは“I’m from …”と自分の出身国を教えてくれるのだが、

そこに地図があると、実際にその場所をさし示し、子どもたちもどこから来たのか理解しやすい。また、地図を手がかりにして日本からの距離や飛行時間、その国のようすなどゲストが話をしてくれるため、会話に広がりや深まりができ、コミュニケーションの幅を広げることができるよさがある。なかには、自分の国の地図だと日本が一番右端にかかっていることを教えてくれるゲストもあり、自然な形で異文化理解につなげていくこともできる。

3. 6年の実践（英語学習）

文字を書く活動の一つとして、国名の綴りを学習する実践である。機械的にアルファベットの綴りを学習したのでは、児童の興味・関心や意欲が損なわれてしまうため、楽しみながら文字にふれられるよう、ゲームを取り入れて実践している。ここでの地図の活



6年英語授業のようす

用は、国名の表記の仕方を学ぶ際に実際にどこの国のことなのか、場所を明らかにするために使っている。普段日本語で聞き慣れている国でも、英語で表記されたり、発音されたりするとどこの国のことを言っているのかわからなくなってしまうため、地図を使って位置も押さえながら学習を進めていく。

国名の扱いについては、子どもたちに馴染みの深い国やこれまでのALT（外国人英語教師）や外国人ゲストの出身国を取り上げている。地図を見ながらアルファベットを探し、国名を作りあげていくため、綴りの認識だけでなく、日本との位置関係も自然に身についていくと考えている。

4. おわりに

地図を用いることで、外国を身近に感じ、世界の中の日本を意識できるのではないかと思う。今後も積極的に地図を活用し、コミュニケーションの幅を広げられるような実践を進めたい。